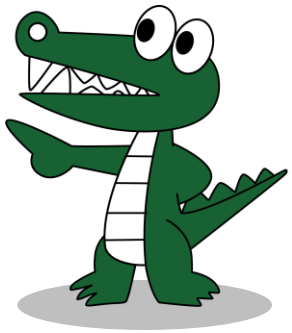


豊中市 みち空間づくり基本方針

～公民連携でまちに賑わい・潤いを～

豊中市



〈基本方針の構成〉

はじめに
02～03ページ

〇本方針の目的と位置づけ　　〇基本理念（コンセプト）

第１章　みち空間の実現に向けた取組み
04～15ページ

I-1　みち空間づくりの目標と方針
I-2　将来の都市空間のイメージ
I-3　みち空間の使い方をデザイン
I-4　みち空間の設えをデザイン
I-5　みち空間の関わりをデザイン
I-6　持続可能なみち空間へ

第２章　市民ニーズ調査
16～30ページ

２－１　豊中市民ニーズ調査
２－２　各駅前のニーズ調査（豊中駅・緑地公園駅・曽根駅）
２－３　意見交換（豊中駅・緑地公園駅）
２－４　駅前空間ごとで求められていること

第３章　みち空間活用事例
31～39ページ

３－１　本市のみち空間整備・活用事例
３－２　他都市のみち空間の活用事例
３－３　駅前デッキ広場の活用
３－４　地域住民のチャレンジ空間
３－５　ウォーカブルなまちづくり

第4章　エリア別ケーススタディ
40～47ページ

４－１　ケーススタディの対象地域
４－２　A：豊中駅前の人工広場周辺
４－３　B：緑地公園駅東側の道路・広場空間
４－４　C：曽根駅東側の歩道空間

空間づくりを支える取組み・制度
48～52ページ

本方針の目的と位置づけ

本市では、こどもや若者・子育て世代等、誰もが将来にわたり住み続けたいと思うまちの実現を図るため、駅前広場や歩道等の“みち空間”において、「居心地がよく長居したくなる空間」「賑わいがあり出かけたくなる空間」といったより価値の高い都市空間の創出をめざしています。

そのため、上位関連計画で示された方針や市民・駅周辺利用者のニーズ、先進的な事例等を踏まえ、活用に向けたケーススタディを行い、実現に向けたロードマップをまとめた「みち空間づくり基本方針」を策定しました。

本方針は、みち空間の活用アイデア等をまとめたものであり、行政はもとより、住民や地域団体、民間事業者が主体的に取り組む上でのきっかけや指針になるものとして活用をしていきます。

※「みち空間」とは、駅前広場、歩道、道路沿いの余剰空間など、単なる通行機能にとどまらず、休憩、交流、滞在、にぎわい、地域活動など多様な使い方が期待される道路空間を指します。本方針は、本市が進める「快適・賑わい・憩い空間づくりプロジェクト」の一環として、道路空間の活用に特化した方針であることから、「みち空間」という表現を用いています。

第4次豊中市総合計画
第4次豊中市総合計画後期基本計画

2025経営戦略方針
第3期豊中ブランド戦略

第2次豊中市都市計画マスタープラン
▷豊中市立地適正化計画
▷豊中市バリアフリーマスタープラン
▷第３次豊中市道路整備計画

第３次豊中市環境基本計画

都市景観形成マスタープラン

第2次豊中市みどりの基本計画
▷グリーンインフラによるまちづくり基本方針

とよなか散歩道

豊中駅周辺再整備構想

＜　豊中市の上位計画・関連計画に基づき、５つポイントを重視　＞

1 空間づくり
地域の憩いや交流が出来る空間づくり

2 自然・グリーン
駅前や道路沿いなどの魅力を高めるための緑化

3 バリアフリー
周辺環境を考慮した土地利用や歩行空間を確保

4 魅力発信
駅前広場や歩道等の賑わい創出・魅力発信

5 ネットワーク
地域の人がつながることができるネットワークづくり

基本理念（コンセプト）

みちをわたしたちの居場所に

歩く・休む・集まる・楽しむ。
みち空間は、まちの毎日とつながる“わたしたちの居場所”です。
みち空間の未来をみんなでつくろう。






第１章　みち空間の実現に向けた取組み

（第2章）市民ニーズ調査、（第3章）先進事例の研究・調査、（第4章）エリア別ケーススタディの検討を踏まえ、市内のみち空間（駅前広場や歩道等）のめざすべき方向性に合わせた、みち空間の実現に向けた取組み・ロードマップを提案します。

1-1　みち空間づくりの目標と方針

空間づくりの目標

滞在価値の向上

居心地がよく
“長居したくなる空間”

安全性や快適性、静穏性、緑量といった環境の質を一層向上させ、
市民が自然に滞在し、くつろぎを感じられる居心地のよい空間を創出

来訪価値の向上

賑わいがあり
“出かけたくなる空間”

イベントやテラス席、文化発表等、
地域主体の多様な利活用を促進し、
まちを訪れる新たな魅力と動機を創出

運営の持続性

地域で育てる
“持続可能な空間”

管理・活用・還元のサイクルが地域内で完結し、
得られた収益や協力が再び空間の改善に活かされる、
持続的に運用できる仕組みを構築

1-1　みち空間づくりの目標と方針

空間づくりの方針

5つのポイント

- 空間づくり
- バリアフリー
- ネットワーク
- 自然、グリーン
- 魅力発信

求められているもの

- くつろげる空間づくり
  - ▶ベンチ・芝生・日陰空間など
- 賑わい空間づくり
  - ▶飲食・イベント開催など
- こどもの遊び場
- 地域と連携した整備・維持管理

必要な取組

- みち空間の活用の可能性の検討
- 地域や民間事業者と連携による活用
- 地域にあったまちのビジョンを作成

方針❶　みち空間の使い方をデザイン

〇歩行・滞在・交流など、みち空間の新しい使い方や価値をみんなで見つけ可能性を広げていきます。

〇市民や地域が主体となり利活用できる柔軟な利用ルールや仕組みを整えていきます。

方針❷　みち空間の設えをデザイン

〇多様な人々のニーズに応える柔軟なデザインを考えていきます。

〇居心地がよくくつろげる空間、にぎわいのある空間等、魅力的な空間を創出していきます。

方針❸　みち空間の関わりをデザイン

〇地域住民・事業者・行政が協働し、多様な主体が関わる仕組みと担い手を育てていきます。

〇地域とともに継続的に活用・運営し、長く愛される空間を支える体制を築いていきます。

1-2　将来の都市空間のイメージ　～駅前広場空間を、思わず立ち寄りたくなる場所に～



方針① 駅前の多様な活用・交流の場

・駅前で展開されるマルシェや映画鑑賞、ヨガ、子育てイベント、市民向け展示などの様々なアクティビティを受け止める場としたイベント空間とします。

・風景になじむ芝生空間やステージ、ベンチ、イスを計画的に配置し、居心地のよい滞在できる空間になります。

方針② インフラの整った多目的な利用

・屋外電源や備品の置き場所を設え、準備から撤収までの手間を軽減し、気軽に利用できるインフラを整備します。

・可動式のテーブルやイスを活用することで、ゾーニングをスムーズに切り替えることができ、日常とイベント利用をシームレスに移行します。

方針③ 地域団体・周辺店舗との連携

・広場や沿道の維持管理や運営を市と地域団体が連携し行うことで、利用ニーズにマッチした、スムーズな活用体制がつくられます。

・清掃や花壇管理への参加を促進する取組みを進め、関わりの輪を少しずつ広げていきます。

※パースは、ケーススタディ等を踏まえた活用イメージであり、実際の活用方法を示すものではありません。

1-2　将来の都市空間のイメージ　～地域住民を中心に、子育て・地域活動広場として～



方針① こどもの遊び場・地域イベント

・花壇や芝生、テーブルなどを設え、日常の休憩や待ち合わせ、ちょっとした交流を受け止めます。

・多世代交流やこどもたちの居場所として、読み聞かせや小さな発表、遊び場など、“日常＋α”の活動を気軽に創出します。

方針② 地域活動を活発にする設え

・地域活動のお祭りやフリーマーケット、イルミネーションなどの活動を実施するための設備や素材を活かした空間とします。

・見通しのよい空間や歩車分離の方法を工夫することで、見守りやすい空間となり、こども連れでも安心して過ごせます。

方針③ 地域住民・子育て世帯との連携

・歩道や道路空間、広場における清掃、除草等の日常の管理を地域が行うことで“自分たちの場所”という気持ちを育てます。

・こどもの居場所や遊び場をきっかけとした、子育て世帯のつながり、地域のつながりが醸成されます。

※パースは、ケーススタディ等を踏まえた活用イメージであり、実際の活用方法を示すものではありません。

1-2　将来の都市空間のイメージ

～地域をつなぐ、歩いて楽しいみち空間～



方針①　歩きたくなるウォーカブル空間

・屋根空間や樹木による日陰空間、シェード、ミストなどで暑さをやわらげ、いつでも気持ちよく過ごせる歩行空間を整えます。

・地域の拠点をつなぎ、歩くことで新たな発見と出会いが生まれるウォーカブルな空間をつくります。

方針②　沿道活用しやすい空間づくり

・段差の解消や案内サインの充実、多言語対応で、より使いやすい誰にとっても安心・安全な歩行空間になります。

・テラス席やイス・テーブルなど、店舗前の沿道と一体で使い、毎日にぎわいと交流を生み出します。

方針③　地域団体・沿道店舗との連携

・将来は道路協力団体や都市再生法人などの体制づくり、ほこみち、道路占用特例も見据え、運営と収益の循環を設計します。

・SNSや掲示板、市民ポータルで「参加の入口」を増やし、交流・つながりの輪を拡大していきます。

※パースは、ケーススタディ等を踏まえた活用イメージであり、実際の活用方法を示すものではありません。

1-3 みち空間の使い方をデザイン 方針 ① ～めざす都市空間をカタチづくる要素～

パークレットによる社会実験





［目的・効果］

・ウッドデッキ等を道路空間に配置し、にぎわいや憩いの空間の創出をめざし設置する休憩施設で、新たなパブリックスペースとして利用されることに期待されます。



キッチンカー

出典：太陽工業㈱





［目的・効果］

・イベント開催時におけるキッチンカー等の活用により、食を通じた賑わいを創出します。



イベントステージ・大屋根空間

出典：池田市／太陽工業㈱





［目的・効果］

・ステージや大屋根空間は、多様なイベント開催ができ、賑わいを創出します。



マルシェ





［目的・効果］

・マルシェイベントにより、多様な人々が交流する賑わいを創出します。



1-4 みち空間の設えをデザイン 方針 ②

～めざす都市空間をカタチづくる要素～

ベンチ

出典：（株）コトブキ





［目的・効果］

・多様なベンチの設置は、歩行者の休憩や利用者同士の交流を促します。



芝生広場

出典：（株）ユニオンアルファ





［目的・効果］

・芝生空間は、滞在したくなる空間を演出します。



植栽・花壇

出典：（株）コトブキ





［目的・効果］

・植栽や花壇は、空間に潤いを与え、居たくなる空間を演出します。



日陰空間

出典：大丸有エリアマネジメント協会





［目的・効果］

・屋根や木陰空間、ミストを設置することで、気候に関係なく安心して滞在できる空間になります。



1-4 みち空間の設えをデザイン 方針 ②

～めざす都市空間をカタチづくる要素～

デジタルサイネージ・多言語案内サイン





［目的・効果］

・リアルタイムな情報や多言語に対応した案内は、誰もが安心して利用できる空間になります。



多様なインフラ整備

出典：豊田市





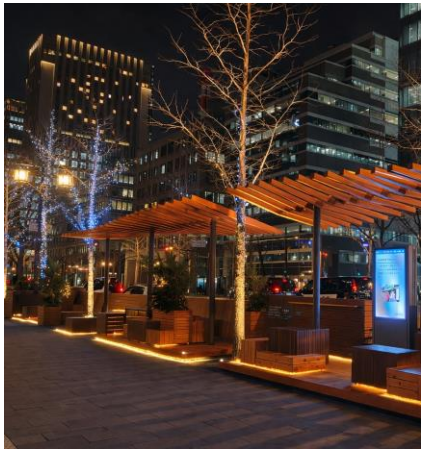
［目的・効果］

・インフラ整備・ひろば活用のルールを策定することで多くの人が関わるきっかけをつくりだします。



夜間の演出

出典：御堂筋まちづくりネットワーク



［目的・効果］

・安全安心で夜間でも居たくなる場として、照明計画や路面店の溢れ出し空間が魅力的な空間を創出します。



歩車分離





［目的・効果］

・自転車通行帯や車両侵入防止等により、歩行者の安全性を確保することで、滞在しやすい空間になります。



1-5　みち空間の関わりをデザイン　方針 ❸　～めざす都市空間をカタチづくる要素～

地域イベント





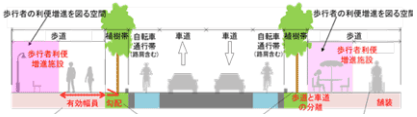
［目的・効果］

・歩行空間をイベント活用することにより、多くの人が出会い・様々な賑わいが創出されます。



ほこみち制度





［目的・効果］

・ほこみちは「歩行者利便増進道路」の愛称です。

・道路を通行以外の目的で柔軟に利用できるようにする制度のことです。

・たとえば、幅の広い歩道にオープンカフェやベンチなどを置いて、歩行者にとって便利でにぎわいあふれる空間を創り出すことができ、様々な出会いを創出します。

日常の維持管理





［目的・効果］

・地域住民や地域企業・団体と連携した環境美化の取組みは、居心地のよい空間づくりに繋がっていきます。



社会実験





［目的・効果］

・場所や期間を限定して試験的に実施される取り組みです。取組みの効果や課題を事前に把握すること、経済・コミュニティへの効果を検証することができます。



1-5　みち空間の関わりをデザイン　方針 ❸　～めざす都市空間をカタチづくる要素～

推進体制のイメージ

みち空間の実現に向けては、行政や地域が単独で取り組んでも、よりよいみち空間の実現はできません。

その地域に関わる多様なステークホルダー（①行政 ②住民・地域団体 ③利用者）が共創することで、価値のある取組みにつながっていきます。

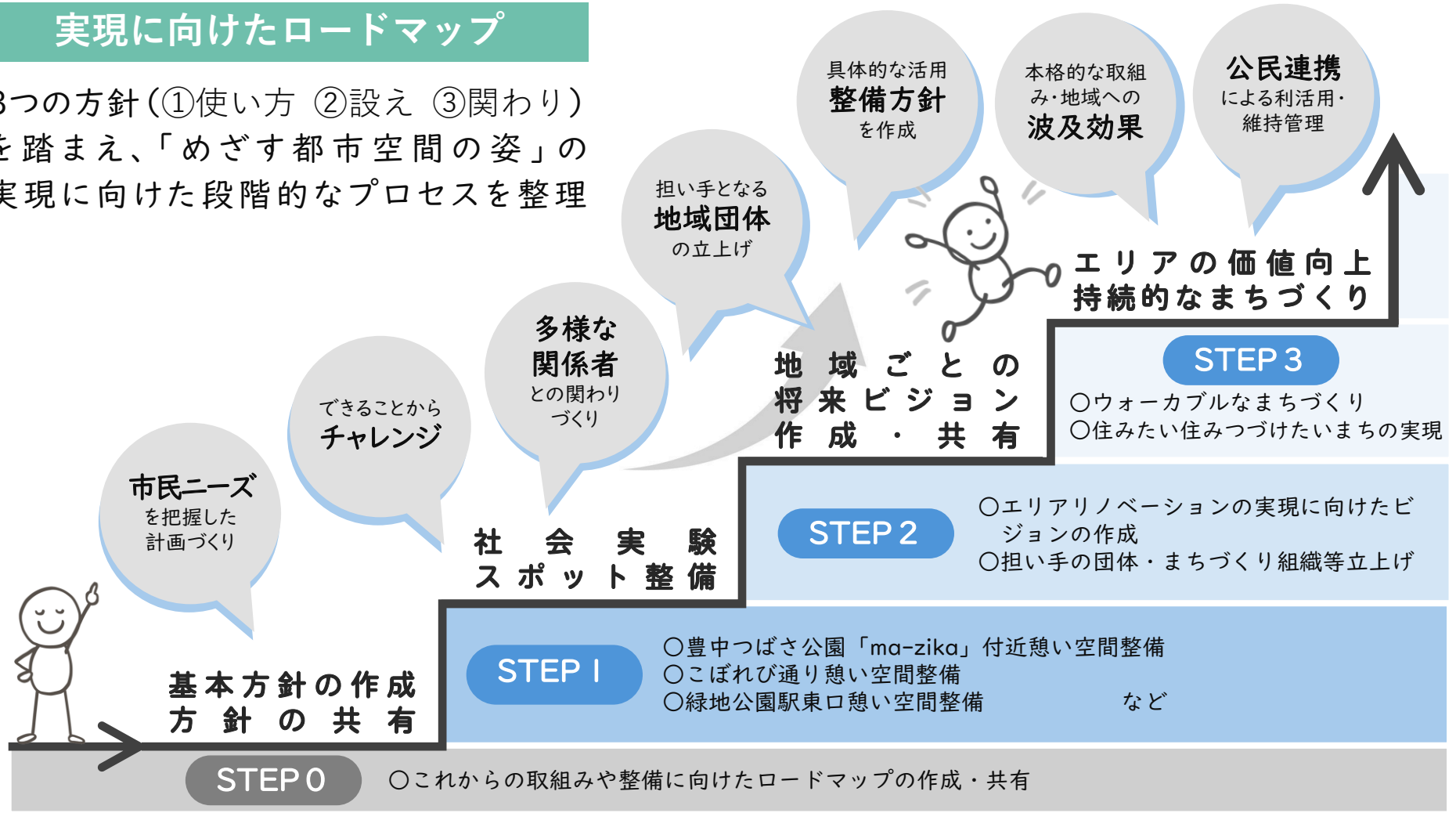
まずは、めざすべき将来イメージに向かって、それぞれの役割ごとに活動していくことが必要です。



1-6 持続可能なみち空間へ

実現に向けたロードマップ

3つの方針（①使い方 ②設え ③関わり）を踏まえ、「めざす都市空間の姿」の実現に向けた段階的なプロセスを整理



第２章　市民ニーズ調査

－アンケート調査や地域団体との意見交換を行い、地域課題やニーズを把握－

2-1 豊中市民ニーズ調査

00

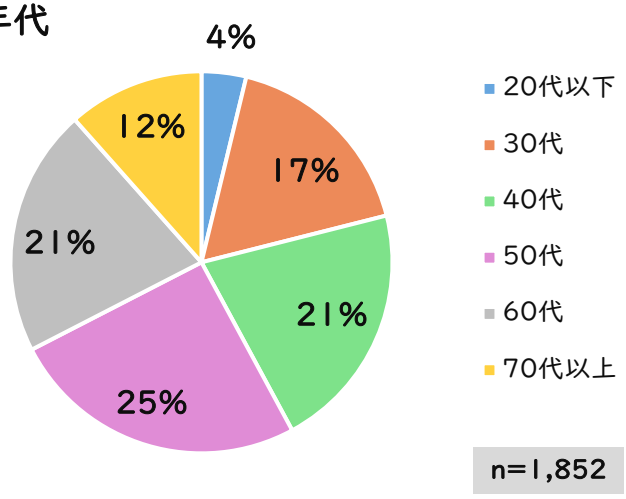
調査の実施概要・回答者属性

実施概要

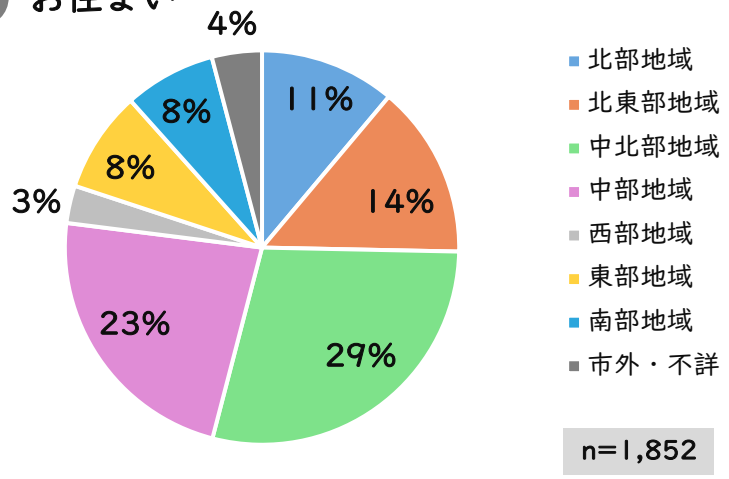
調査期間	２０２５年１０月３日（金）～２６日（日）
実施方法	市公式デジタルアンケート
回 答 数	１，８５２件

回答者属性

① 年代



② お住まい

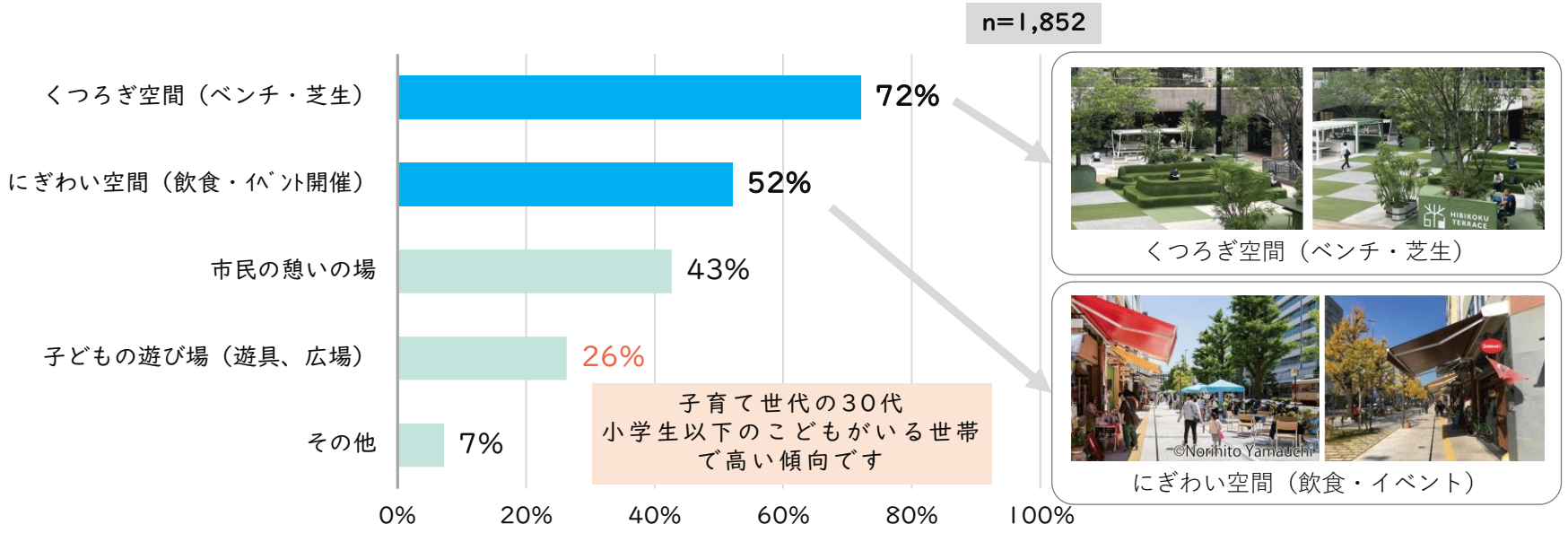


2-1 豊中市民ニーズ調査

※複数回答

01

駅前広場や歩行空間がどのような空間になったら良いか



約7割が「くつろぎ空間」、約半数が「にぎわい空間」を希望しています。

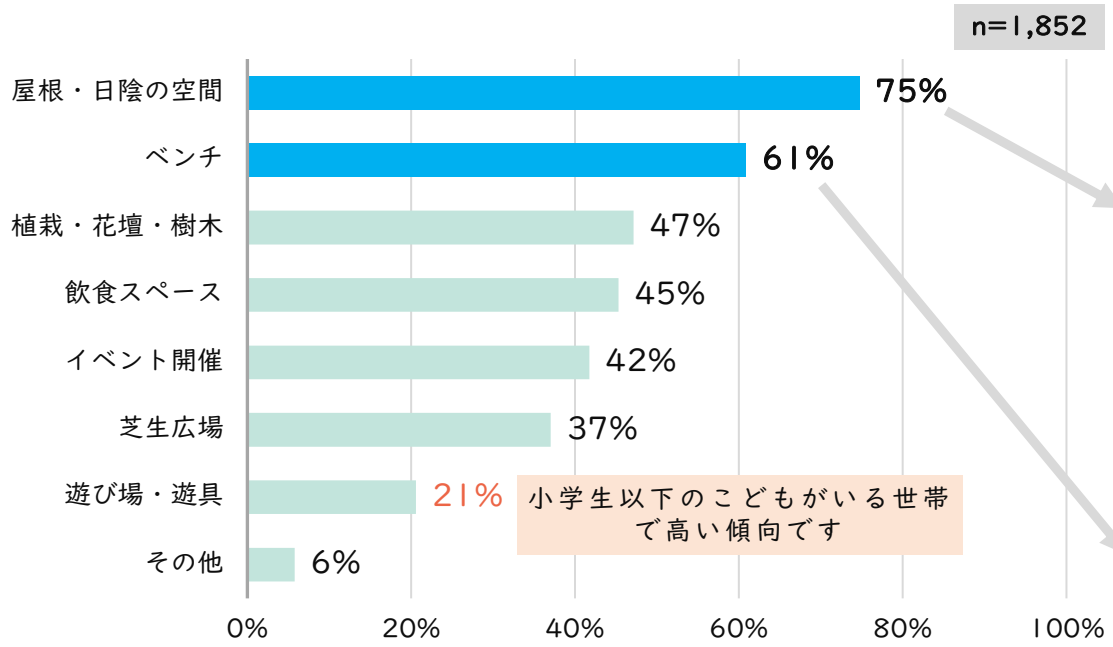
その他回答では「交流・賑わい・安全・快適な環境」等のキーワードが多く挙げられました。

2-1 豊中市民ニーズ調査

※複数回答

02

駅前広場や歩行空間にどのような施設や機能があれば利用したいか





日陰の空間



歩道のベンチ

出典：（株）コトブキ

約7割が「屋根・日陰」、約6割が「ベンチ」を希望しています。

その他回答では「移動の円滑化、公共施設の充実、安全・快適な環境」等のキーワードが多く挙げられました。

2-1 豊中市民ニーズ調査

※自由記述

03

豊中市内外を問わず、お気に入りの駅前広場や歩行空間

トップ10（905件）

◆大阪駅・梅田駅周辺（グラングリーン大阪）
芝生／緑／噴水／ベンチ／イベント／カフェ／時空の広場／
ステーションシティ／旅立ちの広場／風の広場／屋上庭園／連絡デッキ

◆千里中央駅
せんちゅうパル／パルやま／千里セルシー広場／イベントスペース／
千里文化センターコラボ前広場／こぼれび通り／千里さくら通り

◆緑地公園駅
服部緑地／公園の緑道／噴水／ベンチ／散策／ウォーキング

◆箕面萱野駅
みのおキューズモール／駅前芝生／川／イベント／カフェ／直結動線

◆御堂筋沿線（心斎橋駅・なんば駅・淀屋橋駅）
歩行者優先の広い歩道／イベント／ライトアップ／ベンチ／歩行者天国／椅子

◆川西能勢口駅
百貨店／商業施設直結／広場／イベント／屋根付き動線

◆西宮北口駅
西宮ガーデンズ／駅直結／屋根付き動線／ベンチ／屋上庭園／商業施設

◆池田駅
新しい広場／イベントステージ／ベンチ／花壇／落ち着いた雰囲気

◆天王寺駅
てんしば（芝生・イベント・家族連れ）

◆江坂駅
江坂公園／駅前図書館周辺／広い歩道／商業充実

評価のポイント

○緑・芝生・水辺
癒やし／季節感／こどもが安全に遊べる／
ペットと一緒に過ごしやすい

○ベンチ・座れる場所・テーブル
休憩／待合せ・飲食（持込含む）に便利

○イベント
マルシェ／音楽／パブリックビューイング／出店／キッチンカー

○歩車分離・広い歩道・屋根・ミスト
安全性／暑さ寒さ雨風対策／バリアフリー

○駅・商業・公共施設の直結／ペデストリアンデッキ
濡れずに移動／回遊性向上

○駐輪・送迎・ロータリー
自転車・車の停めやすさ／秩序ある動線

○図書館・子育て支援・遊具
多様な人々が滞在できる機能

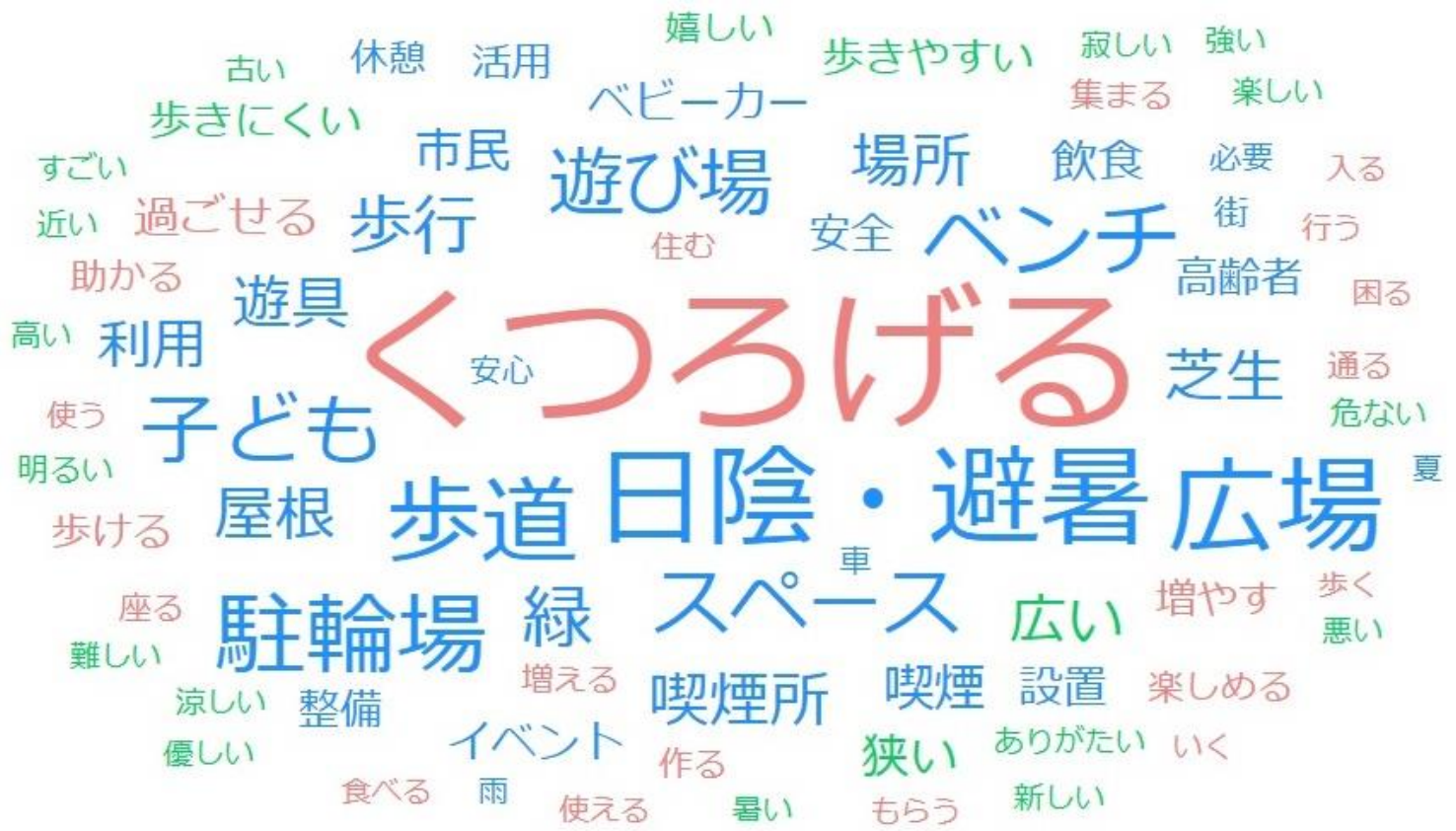
○わかりやすい案内・景観・清潔感
迷いにくい、写真映え、管理の質

2-1 豊中市民ニーズ調査

※自由記述

04

その他、駅前広場・歩行空間に対する活用についてのご意見等



〇こども向けの設備・遊び場に関する主な意見(27件)

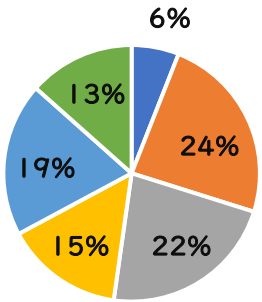
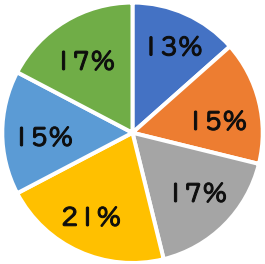
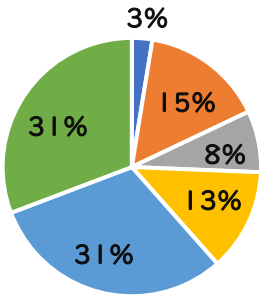
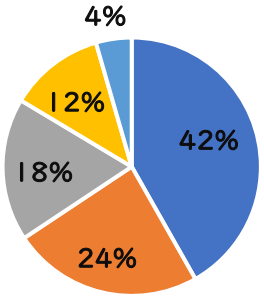
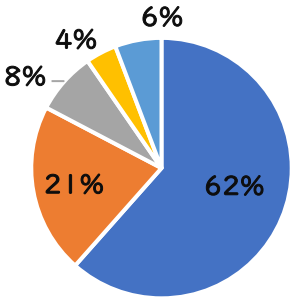
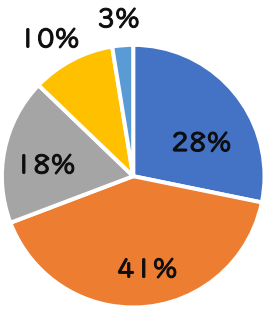
こども向けの遊具や遊び場、水遊びスペースなどの設置を求める声がある一方で、駅前空間での安全性や適切性への懸念から、常設ではなくイベント時のみの利用や室内施設の充実を望む意見もありました。

2-2 各駅前のニーズ調査

00

調査の実施概要・回答者属性

豊中市が所有する駅前の歩行空間（駅前広場や歩道等）から、空間構成や利用実態、周辺環境等の特徴の異なる3つの駅前エリア（豊中駅・緑地公園駅・曽根駅）を選定し、ニーズ調査を実施しました。

	豊中駅	緑地公園駅	曽根駅
調査期間	２０２５年１０・１１月	２０２５年９月	２０２５年９月
実施方法	駅前掲示・街頭配布・ 周辺住戸ポスティング・	街頭配布・回覧板	街頭配布
回 答 数	６７件	５２件	３９件
年代			
通行頻度			

2-2 各駅前のニーズ調査

01 駅周辺は、普段どのような目的で利用をしているか

選択肢	豊中駅（n＝67）	緑地公園駅（n＝52）	曽根駅（n＝39）
買い物	79%	65%	79%
通勤や通学	49%	65%	33%
公共施設利用	31%	13%	26%
食事	30%	13%	18%
塾や習い事	12%	12%	10%
観光	4%	0%	0%
その他	21%	17%	21%
その他の内訳	・通院（2件） ・地域活動 ・児童館 ・ウォーキング	・散歩（4件） ・病院（3件） ・送迎	・病院（6件） ・仕事（2件） ・健康
概要	約８割が「買い物」 約５割が「通勤や通学」 で利用しています。	約７割が「買い物」 「通勤や通学」 で利用しています。	約８割が「買い物」 で利用しています。

2-2 各駅前のニーズ調査

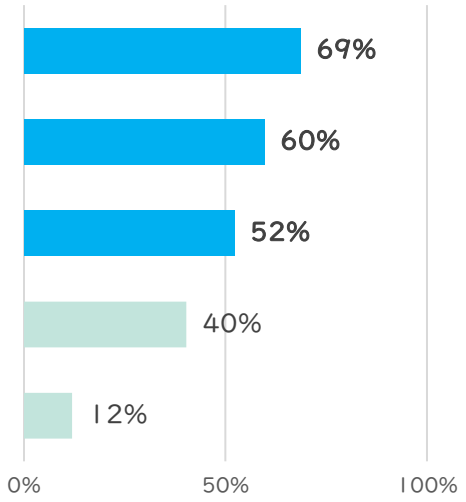
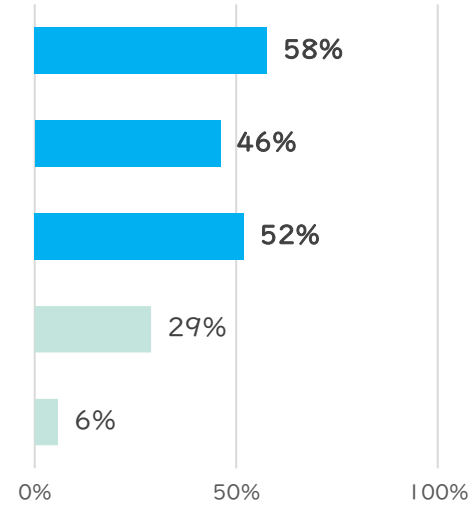
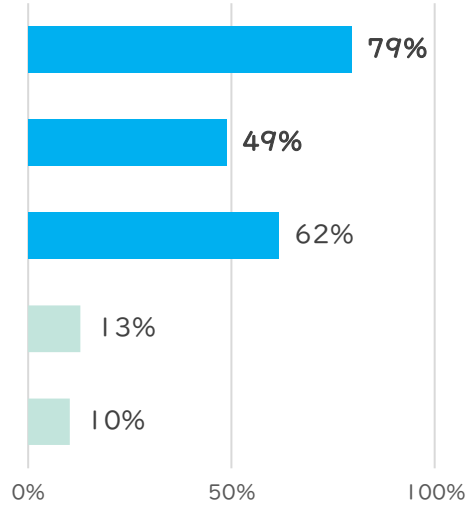
02

駅周辺でよく利用する施設

選択肢	豊中駅（n＝67）	緑地公園駅（n＝52）	曽根駅（n＝39）
ｽｰﾊﾟｰや物販店	88%	88%	87%
飲食店	55%	44%	31%
公共施設	27%	13%	28%
病院	25%	38%	33%
学校	9%	8%	0%
ｽﾎﾟｰﾂ・運動施設	3%	2%	3%
福祉施設	3%	0%	0%
その他	10%	12%	10%
その他の内訳	・まちあいの森（3件） ・銀行　・児童館 ・保育所　・喫煙所 ・歩道橋	・服部緑地公園（2件） ・コンビニ（2件） ・郵便局 ・スーパーマーケット ・銀行	・ジム ・豊中市芸術文化センター ・薬局
概要	約9割が「スーパーや物販店」 約6割が「飲食店」 で利用しています。	約9割が「スーパーや物販店」 で利用しています。	約9割が「スーパーや物販店」 で利用しています。

2-2 各駅前のニーズ調査

03 駅周辺がどのような空間になったら良いか

選択肢	豊中駅（n＝67）	緑地公園駅（n＝52）	曽根駅（n＝39）
			
その他の意見	・ﾏﾙｼｪやｷｯﾁﾝｶｰなど許可された団体によるｲﾍﾞﾝﾄ活用（4件） ・喫煙所の撤去、移設（4件） ・憩い、飲食、商業の充実（2件） ・静かに過ごせる・くつろぎ空間（2件）	・ドッグラン（2件） ・赤ちゃんから高齢者まで利用しやすい空間 ・ﾍﾞﾝﾁや広場はたむろする人がいるので反対 ・送迎の為の自動車のロータリー ・お洒落キッチンカー ・安全な空間	・学びの空間 ・何かを見て歩ける空間 ・食事やゆっくり楽しくお友達とくつろげる喫茶店 ・夏に涼しいスペース、日陰
概要	約7割が「くつろぎ空間」 約6割が「にぎわい空間」 約5割が「市民の憩いの場」 を希望しています。	約6割が「くつろぎ空間」 約5割が「市民の憩いの場」 「にぎわい空間」 を希望しています。	約8割が「くつろぎ空間」 約6割が「市民の憩いの場」 約5割が「にぎわい空間」 を希望しています。

2-2 各駅前のニーズ調査

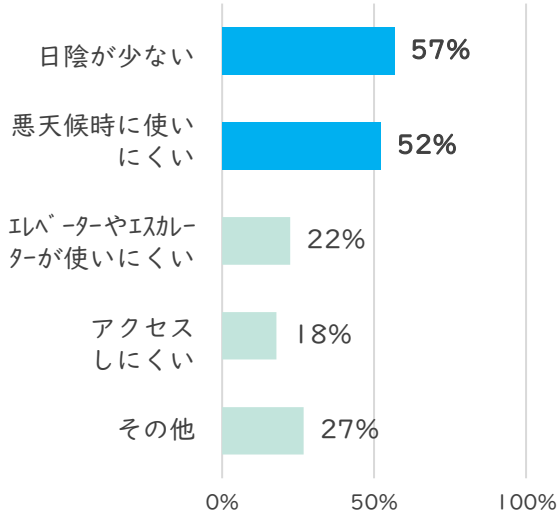
04 駅周辺にどのような施設や機能があれば利用したいか

選択肢	豊中駅（n＝67）	緑地公園駅（n＝52）	曽根駅（n＝39）
屋根・日陰の空間	60%	56%	67%
ベンチ	55%	42%	56%
イベント開催	51%	31%	33%
芝生広場	45%	33%	26%
植栽・花壇・樹木	43%	40%	36%
飲食スペース	37%	38%	38%
遊び場・遊具	30%	19%	8%
その他	6%	12%	15%
概要	約６割が「屋根・日陰の空間」「ベンチ」 約５割が「イベント開催」 を希望しています。	約５割が「屋根・日陰の空間」 を希望しています。	約７割が「屋根・日陰の空間」 約６割が「ベンチ」 を希望しています。

2-2 各駅前のニーズ調査

05 現人工広場の利用で課題に思うこと

豊中駅（n＝67）

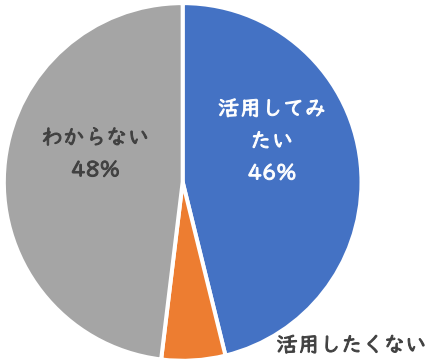


・喫煙所への不満・撤去／移設希望（7件）
・通路・動線の不便さ／安全性（雨天時の床面や自転車）（7件）
・広場の使い勝手や目的性の欠如（5件）
・こどものための環境（4件）
・迷惑行為や無許可活動への不満（2件）
・緑、環境改善（2件）

約5割が「日陰」「悪天候」に課題を感じています。

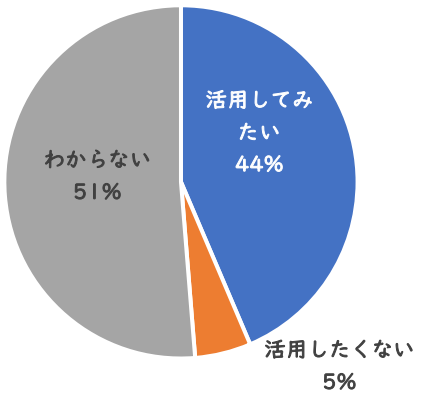
05 歩道空間を活用してみたいか

緑地公園駅（n＝52）



【具体的な活用内容】
・ドッグラン　・読み聞かせ　・くつろぐ
・おしゃれな飲食店
・季節ごとのイベント開催
・キッチンカーやフリーマーケット等
・座ってぼーっと緑を感じる空間
・壁面等を活用したモニュメントやタイムカプセル
・歩行者天国のようなこども達がのびのびする場
・同好会のラジコン大会、親子でのキャッチボール
・お花やベンチ、こどもが少し遊べる憩いの場所

曽根駅（n＝39）



【具体的な活用内容】
・自然を感じる所
・快適なスペース
・ベンチや木陰、夜間の灯り、植栽
・芝生にしてこども遊具などを設置
・毎日の散歩コース
・ゆったりできる飲食店喫茶店
・自転車のルール等学ぶ機会を作れる空間
・暑さを凌いで休憩するベンチ

2-2 各駅前のニーズ調査

※自由記述

06 駅周辺の道路空間・広場空間の活用についてのご意見等

豊中駅（n＝67）

◆イベント開催・文化的活用（5件）
コーラス／演奏／絵画／写真展／夕方開催の提案／
地域活動紹介イベント／プロジェクションマッピング／
アート展示／マルシェなどのイベント開催／
小規模イベント

◆静けさの維持・騒音・迷惑行為への配慮（3件）
夜にたむろが増えないよう治安・落ち着きを維持／
大音量イベントや拡声器の配慮／
うるさい音、音楽、スケボー禁止

◆広場・環境の基本整備（3件）
衛生面整備や鳩対策／夏暑すぎや冬寒すぎの気候対策／
タイル破損や照明などの基礎整備不良

◆緑化・景観改善（2件）
緑を増やしてほしい

◆商業・にぎわい創出（2件）
駅前なので商業施設を入れて名所に／
キッチンカー、屋台、マルシェ開催

◆喫煙所への意見（2件）
喫煙所をなくしてほしい／喫煙所の場所変更・改善

◆その他
芝生・日陰・遊具・水場・ふわふわドーム／
駅2階スペースの子連れ活用、ベンチなど／
「人工広場」の名称変更や銅像の人物に由来したネーミング

緑地公園駅（n＝52）

◆安全性・快適性の向上・道路空間の改善(10件)
路上駐車の対策（短時間降車用ロータリーの設置）／
歩車分離・動線確保（車の進入禁止対策など）／
歩行者通路の確保・改良（道路形状変更）／
暑さ対策（屋根・ミスト冷却装置の設置など）／
インフラの補修（歩道の沈下箇所など）

◆こどもの遊び場・広場・緑化の整備 (8件)
未利用地の有効活用（公園、北側高台、袋状道路、花壇改善）／遊び場としての活用・改善／芝生設置は不要／
身体を動かして遊べる広い場所の整備／
安全で安心して過ごせる遊び場・公園／
広場での喫煙や滞留・飲酒行為対策など／
植栽の適切な管理・整備（雑草、蚊対策、視線確保）

◆商業施設・店舗の充実 (3件)
店舗数の増加（緑地公園西側と同規模程度）／
ドラッグストアの誘致／
飲食店の充実（おしゃれなカフェ、出店など）

◆その他
利用者からのアイディア募集の推奨

曽根駅（n＝39）

◆景観・緑化・美化 (6件)
緑豊かな植栽の導入（御堂筋のような）／
街路樹の適切な水やりと管理／犬の排泄行為への対策／
明るく広々とした雰囲気の創出／
噴水の要不要に関する意見（清掃・費用面の問題、風による水しぶき問題）

◆商業施設・賑わい創出 (4件)
おしゃれなカフェ／大きなスーパー／
買い物や食事ができる場の増加／
様々な買い物ができる複合商業施設（モール）

◆安全性・快適性の向上 (3件)
特定の人々の滞留対策／路上の違法駐車対策

◆イベント・交流・魅力向上 (3件)
芸術や音楽のイベントスペース、大道芸、路上音楽／
歩きたくなる仕掛けやゲーム感覚で遊べるものを導入

◆交通・アクセス改善 (2件)
分かりやすいバス停留所ターミナル／
高架駅直結の歩道橋

◆その他
掲示板の活用

2-3 意見交換（豊中駅・緑地公園駅）

豊中駅周辺の地域団体

［計画づくりについて］



・若者や子育て世代を対象とした意見把握をしたい。
・計画策定するだけでなく、どのように具体的な取組みや実行に移していくかが大事である。
・少しずつまちが変わっていく実感が得られるような継続的なものにしていく必要がある。
・地域住民の協力を得ながら、地域も担い手として関わる仕組みづくりが大事である。
・駅周辺は階段が多く、動線も複雑なため、移動が困難である。デッキ活用だけでなく、周辺も含めた形で検討し、「歩きたくなるまち」「ユニバーサルデザイン」として今後の在り方も検討していくことが重要である。
・歴史、文化、スポーツ発祥の地など「豊中らしさ」を取り入れて、若者など多様な世代を巻き込みながら独自の魅力を生み出すことが望ましい。
・主体的にまちづくりに関わる人々を発掘し、巻き込んでいくことが重要になる。

緑地公園駅の地域団体

［駅東側の道路空間］



・屋根の設置や車の出入を抑制（時間的制約等）することで、にぎわい空間を創出する活用ができると思う。
・現状のアスファルトは使いにくいので、芝生を整備することや、仕上げを変えることで、活用しやすくなる。

［駅東側の広場空間（遊歩公園）］

・樹木、植物もあり日陰もあるので使いやすい。
・ベンチが老朽化しているので、デザインも考えられたベンチの整備をしたい。
・歩道空間と一体的な整備（段差解消、植栽の手入れ）をすることで、キッチンカーを呼んだり、イベント活用もできる
・電源設備があればより活用しやすい。

★今後も意見交換を重ね、活用方法について検討していく。

2-4 駅前空間ごとで求められていること

豊中市全域

- 日差しを和らげる屋根・日陰の空間
- 休憩できるイスやベンチ・テーブル
- 安全で快適な歩行空間
- 癒しを感じられる緑や芝生、水辺の空間
- 多様なイベントの開催

豊中駅周辺

[特徴]

・人通りは多いが、滞在空間が少ない。

・くつろぎ空間やにぎわい空間が乏しい。

[求められていること]

・人通りを活かした多様な使い方に期待

・悪天候でも利用できる空間

・地域団体と連携した適切な維持管理や多様な企画運営

・人工広場・周辺地域を含めた地域全体をつなぐ取組み

緑地公園駅周辺

[特徴]

・道路空間の改善やこどもの遊び場等の需要が高い。

・イベント開催やベンチ等の需要が低い。

[求められていること]

・時間管理や歩車分離などを工夫した安全対策

・安全なこどもの居場所・地域交流の場

・樹木などを活かした日陰空間

・フリマや歩行者天国など道路空間の活用

曽根駅周辺

[特徴]

・道路上におけるくつろぎ空間や憩いの空間の需要が高い。

・イベント開催やこどもの遊び場の需要は低い。

[求められていること]

・ベンチや日陰空間

・地域の施設をつなぐウォーカブルな空間

・地域にふさわしい景観づくり（街路樹・美化）

・地域全体の土地活用にあわせた賑わいづくり

第３章　みち空間活用事例

－対象エリアと類似先進事例を調査し、みち空間の活用に向けた課題や特徴を整理－

3-1　本市のみち空間整備・活用事例

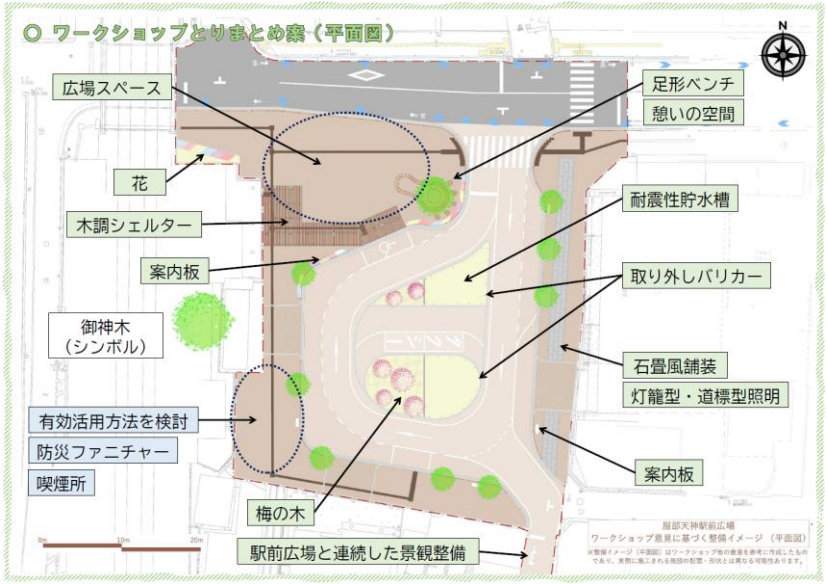
服部天神駅前広場

令和8年3月に完成した服部天神駅前広場では、事業初期段階からワークショップ等を通して、地元住民・商店・駅利用者等と意見交換を行い、「使い方」「設え」「関わり」のデザインに取り組みました。

ワークショップ

ワークショップは、下記のテーマで計3回（延べ参加者数43名）実施しました。ワークショップで出された代表的な意見は下記のとおりです。

ワークショップテーマ
第１回：駅前広場の使い方・しつらえを考えよう！
第２回：計画とりまとめ素案について議論しよう！
第３回：駅前広場整備後の将来について議論しよう！



使い方

・多様なイベント（お祭り、マルシェ、キッチンカー、イルミネーション等）
・災害時には一時避難・防災スペースとしても活用

設 え

・ベンチの設置（数や形状の拡充、テーマ性のあるデザイン）
・案内板の設置（駅前広場周辺案内、歴史説明等）
・景観に配慮した照明（灯籠型・道標型等）、舗装（カラー化、石畳風等）
・植栽、シンボル（梅の木、花壇、御神木、フォトスポット等）
・イベント用施設（電源設備、取り外し式バリカー等）
・防災施設（耐震性貯水槽、防災ファニチャー、非常用電源等）
・場所のアイデンティティ（服部天神の歴史・能勢街道等を踏まえたテイスト）

関わり

・地元主体のイベント（マルシェ、朝市、季節行事等）
・日々の清掃・メンテナンス体制を地域で支える仕組み
・まちづくり研究会の立ち上げ（継続的な議論・協働の場）

3-1 本市のみち空間整備・活用事例

服部天神駅前広場

ワークショップ等の意見を可能な限り反映して、地元や駅利用者が求める「使い方」「設え」「関わり」をデザインした駅前広場を整備しました。

使い方

イベント

地域のお祭りやイベントなどで、駅前広場を広く活用できるよう、ハード面でさまざまな工夫を施しました。

・駅前広場南側の車道を通行止めにしても、ロータリー機能を確保

・歩道と車道および交通島の段差を抑え、一体的に利用可能

・取り外し可能なバリカー（車止め）





防　災

いざという時に備え、駅前広場内の一画に防災機能を持たせました。また、無電柱化整備を行い、災害に強い空間を整備しました。

・災害時の消火活動に使用する耐震性貯水槽

・停電時も点灯する防災ソーラー照明

・災害時に必要な資機材を収納できる防災ベンチ



3-1　本市のみち空間整備・活用事例

服部天神駅前広場

ワークショップ等の意見を可能な限り反映して、地元や駅利用者が求める「使い方」「設え」「関わり」をデザインした駅前広場を整備しました。

設　え

駅前広場の周辺環境や歴史、ワークショップで出された意見等から、この場所にふさわしい設えのデザインに取り組みました。

【歴史的背景】
服部天神駅周辺は、能勢街道を中心に市庭（市場）や服部天神宮、住吉神社等が点在し、能勢街道の宿場町・門前町として栄えてきた





・旧街道の道標をモチーフにした照明
・歴史を感じさせる雰囲気の灯篭型照明
・温かみのある暖色



・景観に馴染む落ち着いた色合いの舗装色
・旧能勢街道に沿った石畳風舗装



・ワークショップで意見が多かった「足形」をモチーフにしたベンチ



・歴史的背景と周辺の歴史的施設を案内する看板

3-1 本市のみち空間整備・活用事例

服部天神駅前広場

ワークショップ等の意見を可能な限り反映して、地元や駅利用者が求める「使い方」「設え」「関わり」をデザインした駅前広場を整備しました。

関わり

地元団体等と協働し地域が関わる仕組みづくりのきっかけとなるイベント等に取り組みました。

実施事例

整備工事中

〇あしに関するアートイベント：大学研究室、豊中市（共催）

〇地域のお祭りの臨時駐輪場：地元団体、豊中市（後援）

〇地域によるまちの文化祭：地元団体、豊中市（後援）

〇地域のお祭りの出店：地元団体、豊中市（後援）

整備後

〇地域のお祭りの出店：実行委員会、豊中市（後援）





イベントの様子

3-2 他都市のみち空間の活用事例

駅前デッキ広場の活用

都市名		プロジェクト名	キーワード
事例①	千葉県柏市	柏駅前デッキ利活用プロジェクト	駅前広場／イベントスペース／チャレンジスペース／広告スペース／都市再生法人／社会実験
事例②	愛知県豊田市	豊田市駅西口ペデストリアンデッキ	駅前広場／イベントスペース／まちづくり会社／都市再生法人／社会実験／広場条例

地域住民のチャレンジ空間

都市名		プロジェクト名	キーワード
事例①	千葉県印西市	イルミネーションイベント	地域活動／自治会運営／イルミネーション
事例②	神奈川県川崎市	ウォールアート	地域連携／ウォーカブルなまちづくり／ウォールアート
事例③	岐阜県関市	道路空間を活用した社会実験	社会実験／商店街／高校連携／地域交流／地域の将来像
事例④	東京都文京区	藍染町会と藍染大通り歩行者天国	歩行者天国／こどもの遊び場／地域交流

ウォーカブルなまちづくり

都市名		プロジェクト名	キーワード
事例①	静岡県沼津市	沼津駅周辺	都市再生法人／パークレット／大学連携／商店街／ほこみち
事例②	岐阜県大垣市	まちなかスクエアガーデン まちなかテラス	駅前広場／イベントスペース／ほこみち／商店街／都市再生法人／かわまちづくり／ウォーカブル

3-3 駅前デッキ広場の活用

事例①

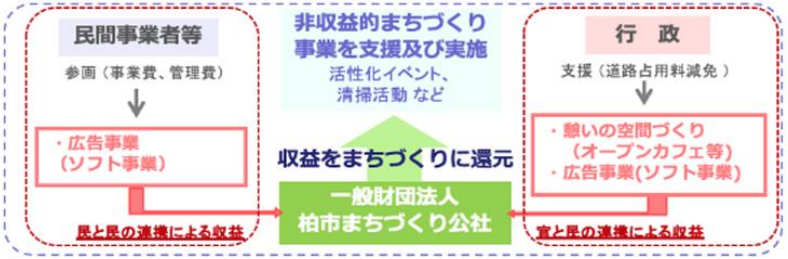
千葉県
柏市

柏駅前デッキ利活用プロジェクト

提供：一般財団法人 柏市まちづくり公社

柏駅前のダブルデッキとウッドデッキでは、都市再生特別措置法に基づく「道路占用許可の特例」制度を活用し、民間による道路上の広告塔や看板、オープンカフェなどの飲食施設や購買施設の設置が一定の条件下でできる仕組みを構築しています。

駅前広場 ／ イベントスペース ／ チャレンジスペース ／
広告スペース ／ 都市再生法人 ／ 社会実験









事例②

愛知県
豊田市

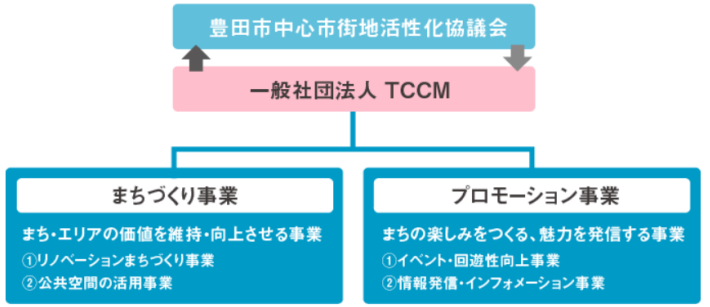
豊田市駅西口ペデストリアンデッキ

提供：豊田市

豊田市駅西口にあるペデストリアンデッキを活用するために、短期的にワークショップを実施した。その後、デッキの余剰空間であった部分のみ道路区域から除外し、条例広場として用途変更しています。

広場の運営管理は、豊田商工会議所と豊田まちづくり（株）で組成された、都市再生法人の一般社団法人TCCMであり、デッキ道路部分の管理は豊田市が行っています。

駅前広場 ／ イベントスペース ／ まちづくり会社 ／
都市再生法人 ／ 社会実験 ／ 広場条例







3-4　地域住民のチャレンジ空間

事例①

千葉県
印西市

イルミネーションイベント

提供：印西市

地域団体が駅前ロータリーや住宅地周辺を40万球のイルミネーションで演出する取組みを2018年から実施しています。
イルミネーションは自治会主体のイベントですが、遠方から訪れる方も年々多くなっています。

地域活動　／　自治会運営　／　イルミネーション




事例②

神奈川県
川崎市

ウォールアート

提供：川崎市

市制100周年を迎えるにあたり、まちなかで誰もがアートを体験、体感し、楽しむことができる取組みとして、川崎駅周辺で醸成されてきたアート資源を活かし、道路擁壁に、ウォールアートを制作しています。

地域連携　／　ウォーカブルなまちづくり　／　ウォールアート




事例③

岐阜県
関市

道路空間を活用した社会実験

提供：関市

車中心から人中心の「居心地がよく歩きたくなるまちなか」をめざし、歩車共存の空間整備を検討しており、道路空間を活用する社会実験を2025年から実施しています。商店街や地元住民、関商工高等学校の生徒によるたくさんの試みが実施されています。

社会実験　／　商店街　／　高校連携／　地域交流　／　地域の将来像




事例④

東京都
文京区

藍染町会と藍染大通り歩行者天国

提供：根津地域活動センター

歩行者天国は、井戸端会議から、こどもの遊び、お祭り、結婚式まで、みんなで使える広場のような場所として活用しています。まちなみや人が変わっても、こどもと大人、まちの内と外、古くからいる人と新しく来た人の垣根を超えたコミュニティ拠点であり続けています。

歩行者天国　／　こどもの遊び場　／　地域交流




3-5　ウォーカブルなまちづくり

事例①

静岡県
沼津市

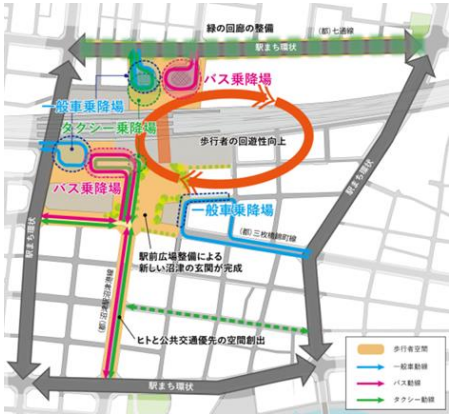
沼津駅周辺

提供：沼津市

公共空間の再編と駅前広場の再整備を段階的に実施している。「公共空間再整備整理計画」と、「都市空間デザインガイドライン」の2種の指針を策定し、まちづくりのシナリオとして段階的に出来ることを整理したうえで実証実験を行っています。

具体的には、1車線を減少した検証やパークレットの設置、イベントの実施等を数回、長期間で実施しています。

都市再生法人　／　パークレット　／　大学連携　／　商店街　／　ほこみち







事例②

岐阜県
大垣市

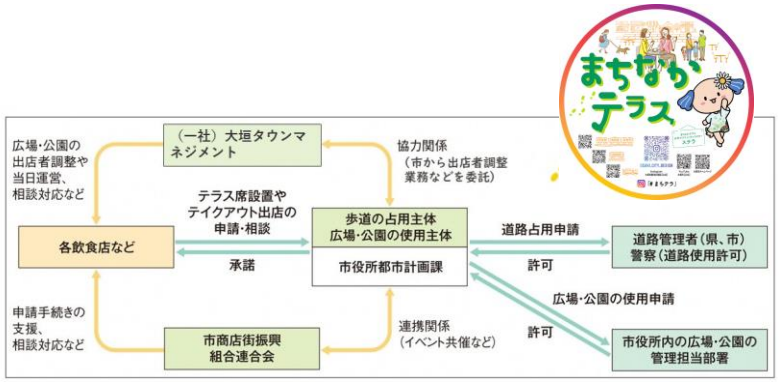
まちなかスクエアガーデン
まちなかテラス

提供：大垣市

2020年から、コロナ禍の道路占用許可緩和措置に基づく占用許可を得て、飲食店等のテラス営業を支援・推進する「まちなかテラス事業」をスタートさせました。

市が占用・使用手続きにおける主体となり、各施設管理者に対し、都市計画課が一括して占用・使用申請や関係機関との協議を行い、ワンストップ窓口でさまざまな活動に関する相談に応じています。

駅前広場　／　イベントスペース　／　ほこみち　／　商店街　／　都市再生法人　／　かわまちづくり　／　ウォーカブル







第４章　エリア別ケーススタディ

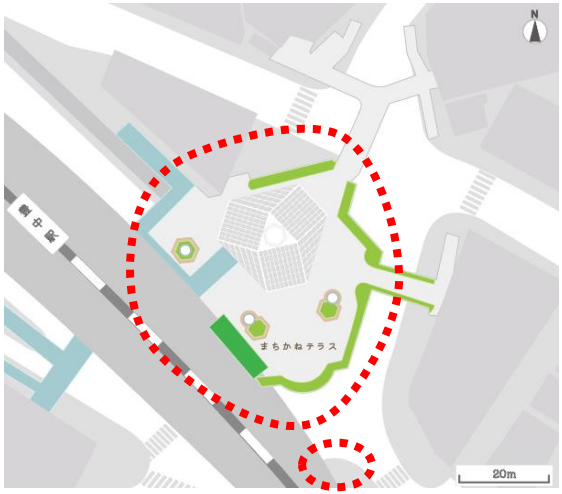
－ニーズや調査結果を踏まえ、対象エリアの都市空間の活用イメージ・事業推進体制を提案－

4-1 ケーススタディの対象地域

豊中市が所有する駅前の歩行空間（駅前広場や歩道等）から、空間構成や利用実態、周辺環境等の特徴の異なる3つの駅前エリア（豊中駅・緑地公園駅・曽根駅）を選定し、ケーススタディ検討の対象地としました。

A：豊中駅前の人工広場





B：緑地公園駅東側の道路・広場空間





C：曽根駅東側の歩道空間





4-2　A：豊中駅前の人工広場周辺

将来像

豊中駅周辺（人工広場・周辺歩行空間）を含めた魅力創出！
地域（団体・店舗）や民間事業者との連携による“くつろぎ・にぎわい空間”を整備・実現へ

定期的なイベント開催　／　維持管理・運営主体・ネットワークの構築　／駅前周辺及び人工広場を含めた賑わい創出　／　将来的なエリア再編を見据えた検討　／
社会実験や新たな活用による関係人口の増加　／　沿道店舗との一体的活用（飲食・カフェ）

人工広場
ベンチの設置



人工広場
カフェ空間



出典：豊田市



人工広場
芝生広場イベント



出典：（株）ユニオンアルファ

歩道空間
カフェテラス



※この図は、道路・歩道空間の活用に向けたケーススタディであり、実際の整備方針ではありません

4-2 A：豊中駅前の人工広場周辺

運営・連携体制イメージ

＜主体的に関わる人＝運営者＞

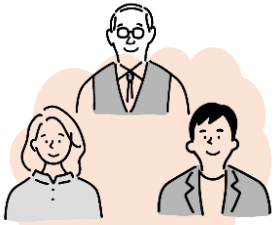
＼参加する人／



地域住民



出店者



運営にかかわる
住民・地域団体

豊　中　駅
人工広場周辺

多様な主体がかかわり連携する賑わいの創出



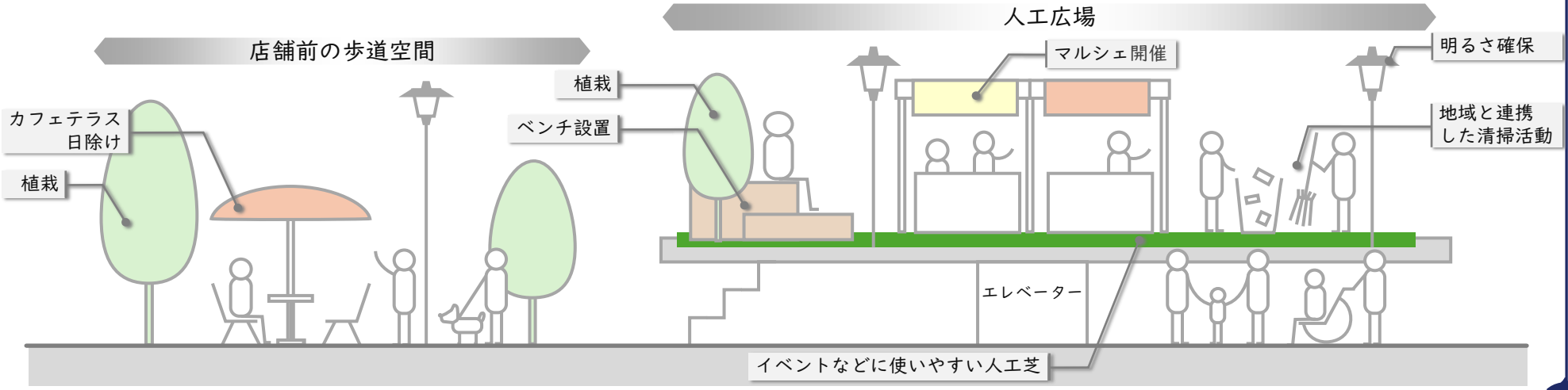
豊中市・管理者

＼参加する人／



駅利用者

整備・活用イメージ



4-3 B：緑地公園駅東側の道路・広場空間

将来像

道路空間と一体になった広場空間による魅力創出！
地域住民やこどもたちの日常利用、チャレンジゾーンとして“くつろぎ・にぎわい空間”を整備・実現へ

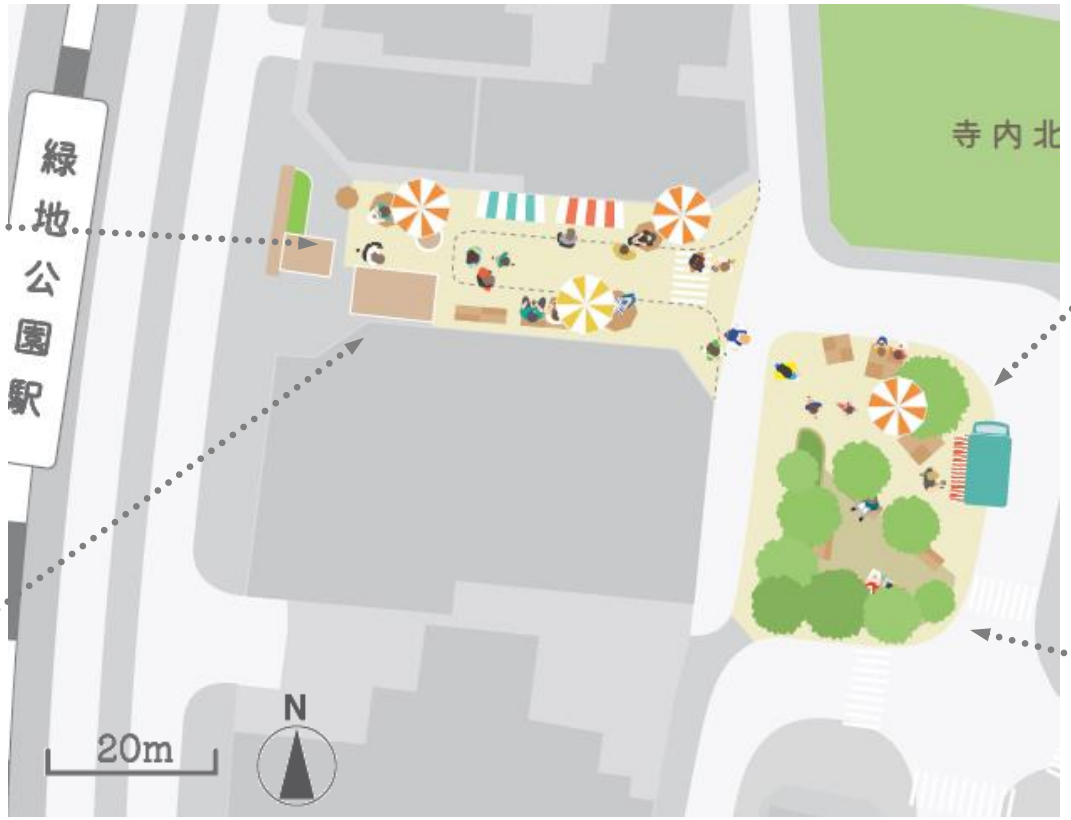
定期的なイベント開催 ／ 住民主体の運営 ／
多様な人々（こども・子育て世代・高齢者など）の集いの場 ／ イルミネーション・アート等の魅力創出

道路・歩道空間
フリマイベント



道路・歩道空間
遊び場空間





緑地空間
キッチンカーイベント



広場空間
木陰・ベンチ・ミスト



※この図は、道路・歩道空間の活用に向けたケーススタディであり、実際の整備方針ではありません

4-3 B：緑地公園駅東側の道路・広場空間

運営・連携体制イメージ

＜主体的に関わる人＝運営者＞

緑 地 公 園 駅
東側道路・広場空間

地域が主体的に、
交流・発表の場
と し て 活 用

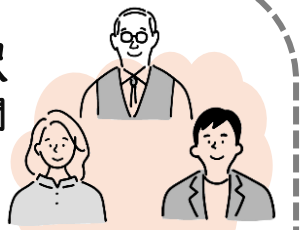
＼参加する人／



地域住民



周辺のお店



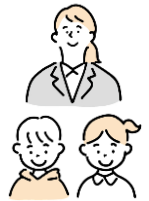
運営にかかわる
住民・地域団体

＼整備する人／



豊中市・管理者

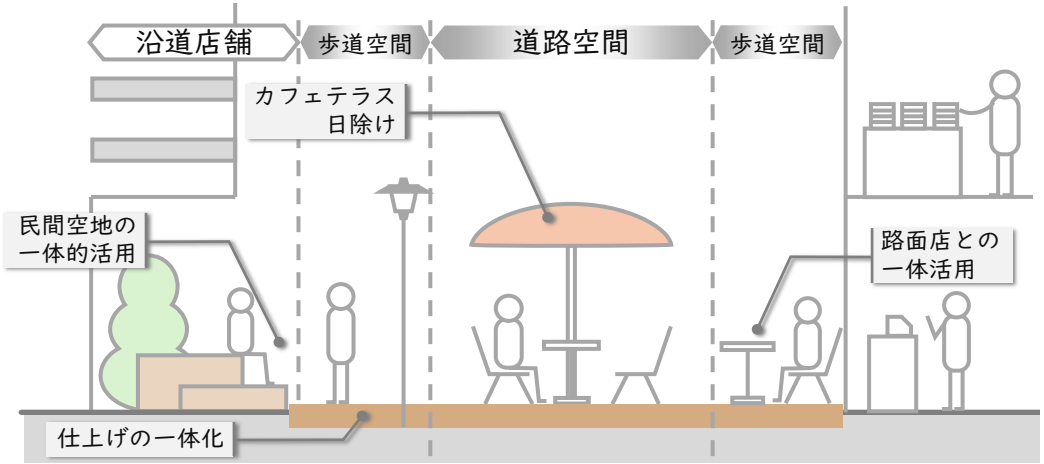
＼参加する人／

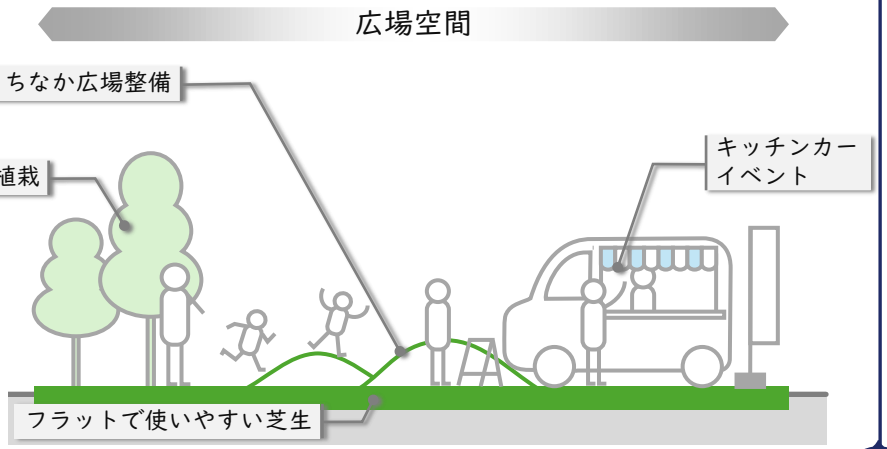


駅利用者

※道路占用許可が必要な場合は、豊中市が運営に関わる必要があります。

整備・活用イメージ





4-4　C：曽根駅東側の歩道空間

将来像

歩行空間活用による地域周遊の魅力創出！
地域（団体・店舗）や民間事業者との連携による、文化芸術・スポーツの拠点を主軸とした
“ウォーカブルなまちづくり空間”を整備・実現へ

ウォーカブルなまちづくり　／　沿道店舗との一体的活用（飲食・カフェ）
歩道の憩い空間の設え（ベンチ・人工芝）　／　モビリティの活用　／　自転車通行帯　／　社会実験や新たな活用による関係人口の増加

歩道空間

パークレットの設置



出典：（株）コトブキ

歩道空間

マルシェイベント





歩行空間

沿道店舗連携





※この図は、道路・歩道空間の活用に向けたケーススタディであり、実際の整備方針ではありません

4-4 C：曽根駅東側の歩道空間

運営・連携体制イメージ

＜主体的に関わる人＝運営者＞

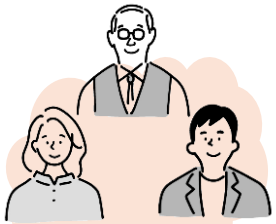
＼参加する人／



地域住民



出店者



運営にかかわる住民・地域団体

曽根駅東側の歩道空間

ウォーカブルなまちづくりをめざした歩きたくなる都市空間



周辺施設関係者

＼整備する人／



豊中市・管理者

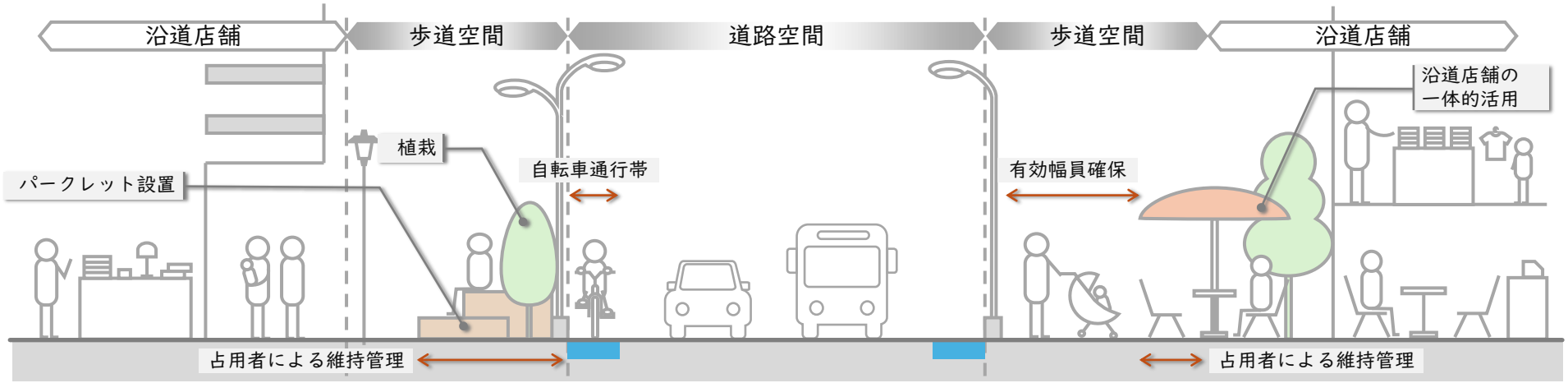
＼参加する人／



駅利用者

※道路占用許可が必要な場合は、豊中市が運営に関わる必要があります。

整備・活用イメージ



＜　空間づくりを支える取組み・制度　＞

豊中市の取組み・制度

○社会実験

豊中市は、都市公園におけるにぎわいの創出、公園の利便性の向上を目的として、令和2年度から複数の公園を対象地として、公園・住宅団地へのキッチンカー提供の社会実験を定期的に実施しています。結果、公園利用者だけではなく、周辺地域住民の利便性の向上、また、来園への動機付けや新たな公園の活用へのきっかけに繋がることが確認できました。



○豊中市にぎわい事業助成金

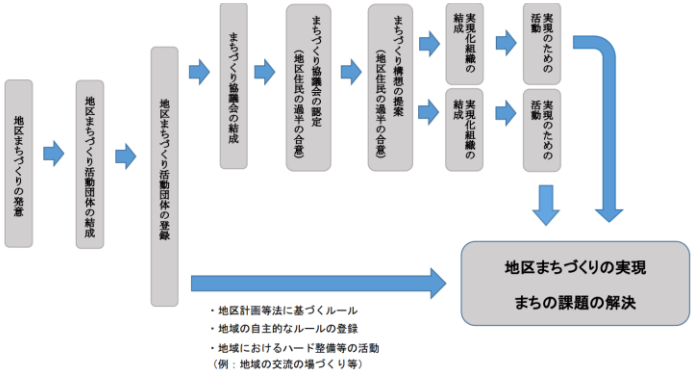
豊中市域において、来街者を多数呼び込むことにより、にぎわいを創出する事業等の充実をとおして、まちの活性化を図ることを目的とした助成金です。助成対象事業は、豊中市域で開催する音楽コンサート、まつり等、にぎわいをもたらすイベントや企画が対象です。

【助成率】：助成対象経費の1/2
【助成額（限度額）】：30万円

○豊中市地区まちづくり条例

豊中市民が自分の住む身近な地域の環境を良くするため、地区まちづくりに関わりを持つ場合、その自発的な活動を行政が支援し、住民と行政が協働で住みよいまちづくりを進めるために制定しています。

地区まちづくり活動の流れ（一例）



○地区まちづくり支援制度

豊中市は、豊中市地区まちづくり条例に基づき、地区まちづくりに取り組む団体の活動に応じた支援を行っています。地区まちづくり活動団体は、活動内容に応じて「地区まちづくり支援制度」のアドバイザー派遣、コンサルタント派遣、活動費助成、クラウドファンディング活用支援助成の活用が可能ですが、一定の要件を満たした団体である必要があります。

エリアマネジメント

○都市再生推進法人

都市再生特別措置法に基づき、都市の再生に必要な公共公益施設の整備等を重点的に実施すべき土地のまちづくりを担う法人として、市町村が指定するものを指します。

都市再生推進法人は、自らの業務を行うために必要な都市再生整備計画の作成を、市町村に提案することができます。

○まちなかウォーカブル推進事業

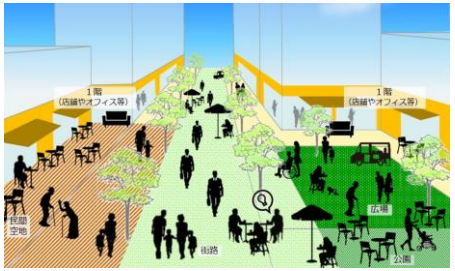
車中心から人中心の空間へと転換を図る、まちなかの歩いて移動できる範囲において、滞在の快適性の向上を目的として市町村や民間事業者等が実施する、道路・公園・広場等の既存ストックの再編・利活用、滞在環境の向上に資する取組みを重点的・一体的に支援し、「居心地が良く歩きたくなる」まちなかづくりを推進する事業をいいます。

○ウォーカブル推進税制

「居心地が良く歩きたくなる」まちなかの形成をめざす区域において、民間事業者や土地所有者等が、市町村による道路、公園等の公共施設の整備等と併せて民地のオープンスペース化や建物低層部のオープン化を行った場合に、固定資産税・都市計画税の軽減措置を講じる制度をいいます。

○都市利便増進協定

地域のまちづくりのルールを地域住民が自主的に定めるための協定制度で、 地域のエリアマネジメントを継続的に取り組む際に活用することが期待されます。 良好な居住環境の確保や地域の活性化等、地域主体の公共的な取組みを促進するとともに、市町村と適切に役割分担を図りながら、まちづくりを促進することが可能となります。



図：ウォーカブルなパブリック空間のイメージ（国土交通省）

○まちなか公共空間等活用支援事業

官民の様々な人材が集積するエリアプラットフォームの構築やエリアの将来像を明確にした未来ビジョンの策定、ビジョンを実現するための自立・自走型システムの構築に向けた取組みを総合的に支援し、多様な人材の集積や投資を惹きつける都市の魅力・国際競争力の強化を図ります。

○地域再生エリアマネジメント負担金制度（日本版BID）

３分の２以上の事業者の同意を要件として、市町村が、エリアマネジメント団体が実施する地域再生に資するエリアマネジメント活動に要する費用を、その受益の限度において活動区域内の受益者（事業者）から徴収し、これをエリアマネジメント団体に交付する官民連携の制度をいいます。





写真：梅田あるくフェス2024

○一体型滞在快適性等向上事業（一体型ウォーカブル事業）

まちなかウォーカブル 区域内の民間事業者（土地所有者等）が、市町村が実施する事業（公共施設の整備又は管理に 関する事業）の区域に隣接又は近接する区域において、市町村が実施する事業と一体的に交流・滞在空間を創出する事業をいいます。



図：官民一体による「居心地が良く歩きたくなる」空間創出のイメージ（国土交通省）

道路空間活用を支える主な制度

歩行者利便増進道路（通称：ほこみち）

歩行者の利便性や賑わいの向上を目的として指定する道路制度です。 指定された道路の特例区域においては、歩行空間の中にベンチや購買施設等を設置できる空間を設けることができるほか、道路占用許可の特例により、施設の設置や活用がしやすくなります。



図：ほこみちとまちなか
ウォーカブル区域の併用イメージ

道路協力団体

道路の魅力向上のための様々な取組みを行うことのできる、公的に認められた民間団体です。公民連携による道路管理の充実と民間主体のまちづくり活動を促進していくことを目的に、道路上での収益活動が可能となり、得られた収益は道路管理に還元することが求められています。



出典：NPO法人御堂筋・
長堀21世紀の会

歩行者天国

道路を一時的または恒久的に車両通行止めにして街路の区間を歩行者専用とする制度です。賑わいや利便性を高める仕組みで、法的には「歩行者用道路」の指定や、近年創設された「歩行者利便増進道路（ほこみち）」制度により、カフェやイベントなど多様な道路空間の活用が可能になっています。



写真：なんば駅前

広場条例及び兼用工作物

道路等に、市民に多様な憩いと集いの場を提供し、都市における市民相互の交流及び利便性の向上を図るため、道路区域外の空間等を広場として設置・管理するための条例をいいます。また、道路と駅前広場等の他の工作物が相互に効用を兼ねる場合には、道路及び他の工作物を兼用工作物として取り扱うことができます。兼用工作物の管理については、道路管理者と他の工作物の管理者とが協議してその管理の方法などを定めることができます。



出典：旭川市

道路内建築物

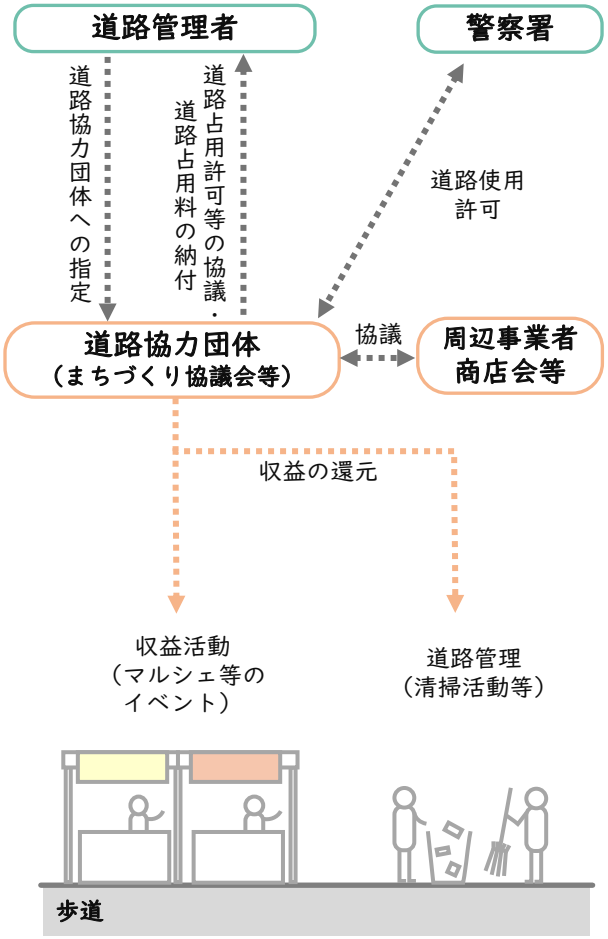
建築基準法第44条により、道路内に建築物や擁壁を建築・築造することはできませんが、公衆便所、巡査派出所その他これらに類する公益上必要な建築物で通行上支障がないものや、公共用歩廊、その他周囲の環境を害するおそれがないと特定行政庁が認めるものについては、建築審査会の同意を得た上で許可を受けることで建築が可能となります。



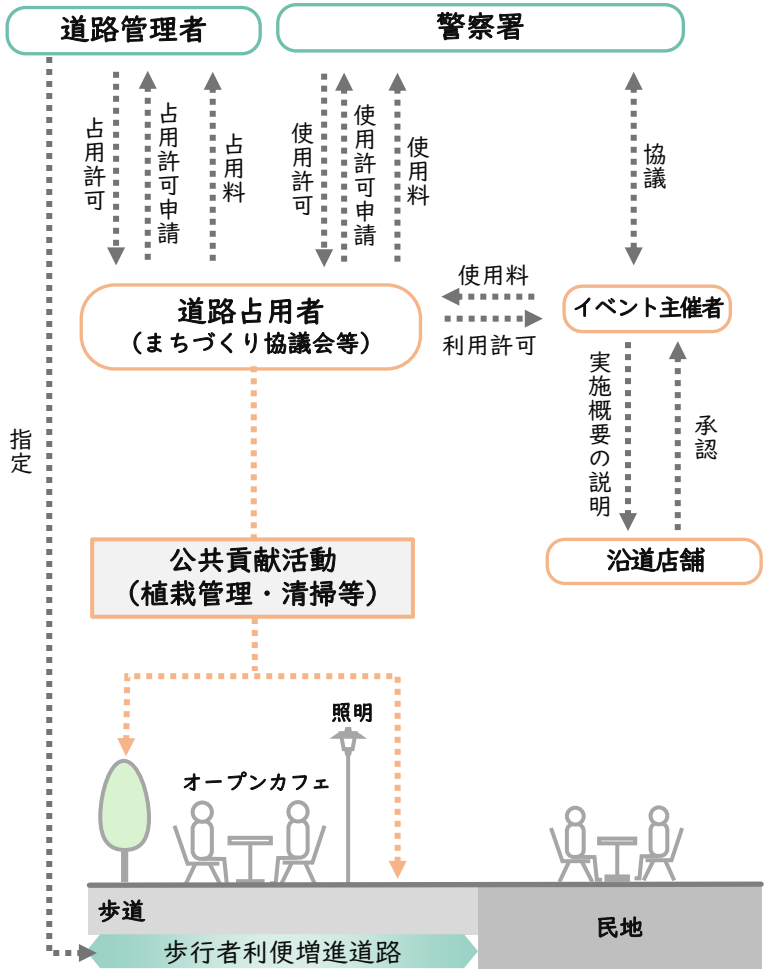
写真：神戸三宮中央通り

道路空間活用を支える制度のイメージ（例）

道路協力団体



歩行者利便増進道路（通称：ほこみち）



○ 道路管理者・警察署　○ まちづくり協議会・自治体・飲食店等

豊中市

2026年10月

みち空間づくり基本方針

（発行）豊中市　都市基盤部　基盤保全課

